

○市田忠義君 総理は、所信表明で、世界経済は今、大きなリスクに直面していますと述べられました。しかし、総理、今、危機とリスクに直面しているのは日本経済と国民の暮らしではありませんか。そのことは、政府が総額二十八・一兆円もの大規模な経済対策を打ち出さざるを得なかったことによっても自ら証明しています。しかも、その中心を占めるのは、リニア新幹線建設への公的資金投入など大型開発事業へのばらまきであります。こういうやり方は、経済効果が乏しく、財政を借金漬けにするとして、歴史的にその失敗が証明済みのものではありませんか。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) 市田忠義議員にお答えをいたします。

こうしたことを踏まえ、先般、事業規模二十八兆円を超える経済対策を決定し、補正予算を編成しました。本経済対策は、構造改革を加速化するとともに未来への投資の加速を目的としたもので、当面の需要喚起にとどまらず、民需主導の持続的な経済成長と一億総活躍社会の着実な実現につながる施策を中心としており、ばらまきとの批判は当たりません。